

## 森の中を遊び場に 自然好きな人集まれ

～高間自然遊び広場～

**大**人も子どもも自然の中で思いっきり遊びたい！そんな思いを実現しようと、市内の子育て中のお母さんのサークル「NPMマザーズ」が高間自然遊び広場を立ち上げました。

10月23日には、活動拠点となる高間みずべ公園でオーブンイベントが開催され、家族連れなど120名が参加。甲賀愛林クラブも協力をし、参加者は、公園脇の山林に設けられた冒険コースを歩いたり、木工クラフトやアウトドアッキングを楽しんだりしました。

この広場は、今後2か月に一度活動される予定です。



▲焼きマシュマロでおやつタイム

## 改修工事終え貯水式 来春には満水に

～大原ダム～

**お**とし秋から進められていた甲賀町の大原ダムの改修工事がほぼ完了し、10月22日に貯水式が行われました。

同ダムは、築造後50年以上が経過し、老朽化が激しく、安全性が問題となっていました。工事はダムの水を抜いて行われ、受益農家では1年間、水稲の作付けができなかったため、住民らは、早期完成を待ち望んでいました。

式では、関係者が水門のハンドルを回して門を閉め、貯水できるようにしました。来春には、満面の水をたたえたダムの姿が戻ってくる予定です。



▲工事が終わった大原ダムを視察する関係者

## 楽しい遊びがいっぱい 子どももママも笑顔に

～すくすくまるっこフェスタ～

**親**子向けのイベント「すくすくまるっこフェスタ」が10月29日、甲南青少年研修センターで開催されました。

このフェスタは、甲南子育て支援センターと子育て支援拠点「つごいの広場」が共催し初めて開催したもので、約60組の未就園児親子が集いました。

会場には、木の実や牛乳パックなどを利用したりサイクルおもちゃ作り、体を動かして遊ぶコーナー、大型絵本の読み聞かせなど、子どもたちの大好きな遊びがいっぱい。また、子育てサークルの紹介や食育情報の提供、子ども服の譲り合いもあり、お母さんたちにも好評でした。



▲布製の魚釣り遊びを楽しむ子どもたち

## 市の特産品 焼き杉細工に挑戦

～伴谷小学校親子体験教室～

**伴**谷小学校で10月21日、5年生の親子が市の特産品である焼き杉細工に挑戦しました。

焼き杉の伝統工芸品を製造する土山合同木材の馬場正光さんが、鈴鹿山系の杉の間伐材を使ったキーラック（鍵掛け）の作り方を指導。参加親子は、動物や魚などの形をした杉の板をやすりで面取りし、バーナーで焼いてもらいました。真っ黒になった表面の炭をブラシでこすると、木目が浮かびあがり温かみのある風合いに。仕上げに各自で絵を描いたり、飾りを付けたりして作品を完成させました。

同校での体験教室は10年以上も続けられており、兄弟の作品を見てこの日を楽しみにしていた児童も多かったようです。



▲金具を付けて焼き杉のキーラックの出来上がり

## ゲートボールを通して 親交深める

～忍者の里杯親善ゲートボール大会～

**甲**南グラウンドで10月11日、忍者の里杯親善ゲートボール大会が開催されました。

競技を通じて互いの親睦を図る恒例の大会。18回目を迎えた今年も600名を超える県内外のゲートボール愛好者が集い、日頃磨いた技を競い合いました。

チームワークが大切なゲートボール、応援にも熱が入り、選手の皆さんは真剣な面持ちでボールに集中。秋晴れの中、審判の「ゲート通過」の声に一喜一憂しながら、競技を楽しみ親交を深めました。



▲各コートで繰り広げられた熱戦

## 魔女やお化けが集合 仮装コンテストも

～国際交流協会ハロウィンパーティー～

**市**国際交流協会主催のハロウィンパーティーが10月23日、忍の里プラザで開催され、市内の小学生など130名が参加しました。

ハロウィンは、お墓から帰ってくると言われるお化けを、こわい格好をして追い払う欧米のお祭りで、今では子どもたちが仮装してお菓子をもらう催しとして日本でも定着しています。

仮装コンテストもあり、会場には、魔女やお化け、忍者など、工夫を凝らした衣装をまとった子どもたちが集合。外国人ゲストと一緒にゲームを楽しみ、お菓子をもらって満足そうでした。



▲お菓子取りゲームを楽しむ子どもたち

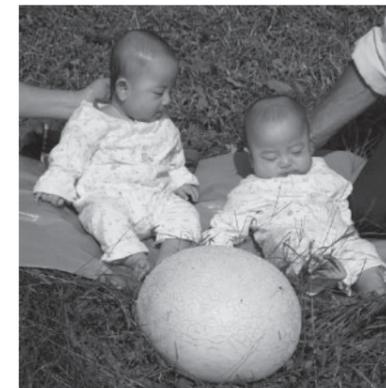
## 白いきのこに白いタヌキ 白尽くしに地元沸く

～甲賀町大原上田～

**白**いゴムボールのような外見をした巨大きのこ「オニフスベ」が10月中旬、甲賀町大原上田の田んぼに現れました。

このキノコは、堀口弘志さんが草刈り中に田んぼのあぜで発見。図鑑で調べ、オニフスベと分かり、観察を続けたところ、日ごとに膨らみ、直径30センチ近くまで大きくなりました。

また、この近くでは同じ頃、体全体を白い毛で覆われたタヌキも見つかっています。立て続けに白く珍しいものが出現し、地元では、「次はどんな白いものが出るか楽しみ」と話題になっています。



▲直径30センチ近くある「オニフスベ」



▲一時、捕獲された白いタヌキ